



雨の中での墓地清掃

9月1日、東京の民青同盟を中心とした青年ボランティア38人が門脇にある称法寺の墓地の瓦礫撤去作業を行いました。

青年たちは雨に打たれながら作業を続けましたが、昼に近づくにつれて雨が激しくなり、この日の作業は午前中で中止。続く3日も朝から小雨が降る中で沖縄、東京、神奈川の日本共産党後援会30人が門脇にある称法寺の墓地の清掃を行い、墓石の上に覆いかぶさっていた大きな瓦礫の撤去は終わりました。

今まで石巻市全体で泥出しや瓦礫の撤去を行っていた石巻対連は8月末で解散したため、日本共産党震災・救援センターが引き継いでいます。

9月3日、愛媛の青年ボランティアと東京の日本共産党後援会の12人が午前は湊地域の御所公園、午後は鷺の巣ちびっこ広場と旧真野小学校跡地、新栄公園の仮設住宅を訪問し、合計で100人を超える被災者に米や野菜、日用品などの救援

物資を配布しました。愛媛の青年は被災者の方々から聞き取り調査を行い、持病を持っているのに病院から遠くの仮設にしか入れず病院へ通えない現状などを聞き、「仮設に入れても厳しい現実があるとわかった」と感想を語りました。



小さな仮設をめぐりお届け

